



文：田中 龍夫 TANAKA, Tatsuo
医学部形態機能医学科教授。附属図書館医学部分館長。専門は分子生物学、生化学。

新入生の皆さんへ

読書のすすめ

皆さんご入学おめでとうございます。皆さんにはこれから心豊かな大学生活を送っていただきたいと思い、図書館もそのためにお役に立ちたいと願っています。

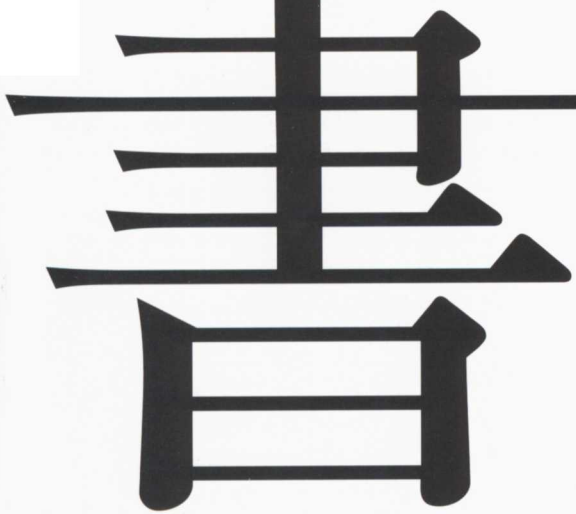
今や情報化社会と言われ、図書館も変わりつつあります。書籍や雑誌の他、ビデオテープやCD-ROMも備えられていますし、インターネットを通してスムーズに情報が得られるように手配することも図書館の大きな仕事になっているのですが、私はあえて本を読むことを勧めたいと思います。

本が売れない

沖縄に大学院大学ができることになったのは皆さんもご存じでしょう。あるいは将来は進学したいと考

えている人も多いことでしょう。この学長に、シドニー・ブレナーという方が就任されるということも、新聞で報道されましたから、ご存じの方が多いと思います。ブレナーさんは今年77歳、分子生物学の研究でノーベル賞を受けられた、いわば功なり名を遂げられた学者です。私の研究領域がこのブレナーさんに比較的近いものですから、先日ブレナーさんの自伝の翻訳を出版したいのだけれど、どれだけ売れるだろうかと相談を受けました。この答えには困ってしまいました。ブレナーという人は波乱に富んだ人生の経験者だと聞いていましたし、私自身大変興味はあるのですが、このような伝記、自伝と言うジャンルが日本では極めてマイナーではないかという感想、まじめな翻訳本はあまり売れないと聞いていることが、ぜひ出版して下さいというのを躊躇させます。

本が売れない。確かに高校生も大学生も教科書以外の活字を読む量は極めて少なくなっているようです。でも我々の学生時代にはなかった情報源、テレビにインターネットそれに携帯電話まで駆使しているのですから、手にすることのできる情報量は圧倒的に増えています。教科書以外には本に頼らずに大学生活を送ることもできるかも知れません。しかし、



【書】

ショ
ふみ・かく・しるす

会意 正字は聿と者とに従う。(説文) 三
に「箸すなり」と書・箸の量頭もつて訓し、
者声の字とするが、書の実体はこの者にある
もので、会意とすべきである。者は祝禱
の器である臼を土中に埋め、その上を小枝
や土で蓋う形で、古くは聚落の周囲にめぐ
らした土垣のなかに、これを封じた。その
垣を堵といふ。その祝能によって、外部か
らの邪悪なものを、杜絶しようとしたので
ある。その祝禱の器中におかれた呪符の文
を、書といふ。すなわち者は書の初文。の
ち者が多義化するに及んで、上に聿(筆)
を加えて、器中の書を、示す字とした。書と
は呪禁として用いる文字、祝詞をいう。文
字には祝能があり、祝詞のもつことだま的
な力は、ここに安定的に宿るものとされた。
文字はことだまをその形のうちに定着させ
る力をもつと考えられたのである。のち重
要な盟誓や案件をしるすこと、またしるし
たものを書といふ。(中略)のち文字・書
冊の意となり、書はその国の文化を荷なう
ものとなった。また特に書法を書といひ、
芸術の重要な一分野をなしている。わが国
では書道といふ。

白川静「字統」(平凡社)より

目次

新入生の皆さんへ (田中龍夫).....	1	教養図書さらに充実ほか.....	9
新入生に贈るきらめき・ひらめきの一冊+1.....	4	琉球大学移民研究センター発足.....	10
新入生オリエンテーションのご案内.....	8	国連資料検索ガイダンス開催ほか.....	11
案内サインを一新.....	8	お知らせ.....	12

このようなメディアにはそれぞれに特徴があります。私は情報に積極的に関わるには本にかなうものはないと思っているのですが、どう思いますか。

古典を読もう

私は生化学・分子遺伝学という分野を専門として研究や教育をしています。その中でタンパク質代謝という講義をします。これは私たちの体を作っているタンパク質がどんな風にして作られたり、壊されたりしているかというお話です。私はこの講義の始めに「行く河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし」という方丈記の冒頭の部分をよく引用します。これは代謝学のもっとも基本的な概念である「動的平衡」を具体的に示す良い例だと思うという理由の他に、誰もが高校で習った記憶を持っていて、心を一つに新しい話題に入っていけると言うからです。

思えば、日本人が共通に一番多く読んでいる文学書の一節は、この「方丈記」や「徒然草」、「枕草子」などの最初の部分ではないでしょうか。あるいは「平家物語」や「源氏物語」の冒頭の部分かも知れませんが同じようなものでしょう。単に教科書に載っているからという理由に過ぎないかも知れませんが、意外に皆がよく覚えているようです。これは長い歴史を経て生き残ってきたものの力強さ、確かさによるものではないでしょうか。

私も皆さんと同じように中学、高校と古典文学の断片に触れています。「方丈記」と「徒然草」は注釈付きの受験参考書のようなもので高校生の頃全部読んだはずですが、でも、もう少し色々読んでおきたかったと思います。私は数年後には定年になって時間はできるのですが、もう「平家物語」を読み通す馬力はないような気がします。平家物語といえば中学生の頃吉川英治の「新平家物語」を全巻読んだのですが、あまり覚えていません。かなり原典に忠実に書かれていると思うのですがその辺も定かではありません。

そんな訳で皆さんに大きなことは言えません。古典を読んで人生を考えようなどと言う気もありません。ただこの素晴

らしい遺産に触れずにおくのは残念だと思うだけです。沖繩のものであれ、外国のものであれ同じでしょう。それぞれに興味のあるものを読んでいただきたいものです。

原典を読もう

十返舎一九の「東海道中膝栗毛」という本をご存じだと思います。小学生の頃読んだという方も多いいと思います。もちろん子供向きに書き直したものです。これをもとのまま読んだという方は極めて少ないでしょう。私は高校生のときに一応は読みました。一応はと書いたのはとても難しくとにかく字面は追い通したということです。弥次郎兵衛、喜多八の話す言葉はともかく、表記も難しく、この時代の風俗や狂歌の知識がないと理解できないことも少なくありません。子供の時に読んだ本をちゃんと読んでみたいという殊勝な心がけではありません、友人の「東海道中膝栗毛はすげべな本だ」という情報が動機だったと思います。それほど大したことが書いてあるわけではないのですが、昔の高校生はそんなものでした。

新入生の皆さんへ

読書のすすめ

いった趣の部分もあり、そんな部分が少し古過ぎることと、翻訳書が絶版になっていることから紹介をやめたものです。でも、思い出したら何か懐かしくなって、原著がまだまだ売られ続けていることを知って手に入れたものです。

この翻訳を読んだのは大学3年生位ではないかと思えますから、1960年頃でしょう。私は高校生の頃は物理学や数学に憧れていたのが、安易に医学部に入ってしまったものから、基礎医学の勉強が始まった頃に、この本の副題「物理的にみた生細胞」に心を惹かれたのでしょう。この本を読んで、生意気にも、エネルギーの出入りのある生物に熱力学の第二法則を適用するのは何か違うのではないかと思いつつも、こんな研究をやれたら面白いだろうと考えたことを思い出します。

私とて、人生をこの本だけで決めてしまったわけではありませんし、色々な出会いもありましたが、大きな影響を受けた一冊には間違いありません。その後研究生活に入ってから、同じ分野で研究する少し年上の先輩達にこの本が研究分野を選ぶのに影響しているという方が少なからずおられるのを知りました。他の分野ことは知りませんが、それぞれにきっとこのような多くの人々に影響を与えて来た名著があるだろうと思います。あるいは、今まさにそのような本が出版されているかも知れません。

取り留めなく書き連ねてしまいましたが、皆さんにとって、おそらく今が最も良質な読書のできる時期ではないかと思えます。この大学生活の間に、生涯心の隅に残るような本と出会われることを祈っています。

【本】

ホン
もと・はじめ・ほん

指事 木の下の部分に肥点(・)を加えて、指示的な方法で木の下部の根本を示す。それで「ねもと、もと、もとい」の意味となり、物事の「はじめ」の意味に用いる。のち書物を一本二本とよび、「書物ほん」の意味に用いる。木の上部に肥点を加えて、木の末端(こずえ)を示す字は末であり、合わせて本末(もとと、すえ、初めと終わり)という。

白川静「常用字解」(平凡社)より

子供向けの翻案ものではなく、原典を読んで初めて知ることができたのは、これが助平な二人の買春ツアー記の気味があることはさておき、神田八丁堀の裏長屋住まいで家賃も滞るような生活をたたんで旅に出た二人の、その場その場で狂歌をもじり、芝居の台詞を口にする文化人ぶりです。それを教養、素養と見るなら、この時代の江戸庶民の文化的成熟度は今を越える部分があることを認識させられます。人間観察の鋭さ一つを取ってみても、原典の筋だけを追った翻案書はやはり似て非なるものなのでしょう。このような例はたくさんあると思います。ぜひ本物を知っていただきたいものです。

一冊の本

いま机の上に「What is life?」という本があります。これは1933年にノーベル物理学賞を受けたErwin Schrödingerが1944年に出したものです。翻訳が岩波から出ていましたが今は絶版になっています。この本は日本人初のノーベル物理学賞受賞者、湯川英樹が留学先で知って岡小天に訳させたものだと言った記憶があります。この「びぶりお」に一冊の本を推薦するというコーナーがあります。昨年この本を紹介しようと思ったのですが、生物学への新しい概念の提案と



よむ(數)・詠・読(讀)

四段。數を數えることを原義とする。曆は「日數み」の意。數えるようにして、神に祈り唱え申すことを詠むという。數えるにしても唱えるにしても、いずれも声を出していうことであった。「呼ぶ」とも関係のある語である。のち、しるされた文を読む意となる。ヨは乙類。(後略)

白川静「字訓」(平凡社)より

新入生に贈る

ひらめき・ きらめき の一冊+1

■時空を超えて

ガリレオについて調べる必要があって、図書館のOPACで検索をしてみた。「新科学対話」や「力学対話」など、ガリレオ自身の書いた本の翻訳がある。昔の天才の著書を直接見ることができるというのは、すばらしいことだ。もっと古いところでは、プラトンの著作や、紀元前300年頃に書かれたといわれるユークリッドの「原論」の伝承版もある。この「原論」はその後の自然科学、特に数学や物理学などの論理展開のモデルになった。ニュートンの「プリンキピア」も「原論」のスタイルで書かれている（もちろん「プリンキピア」も図書館で見ることができる）。ユークリッドの「原論」は実に2000年以上も数学の教科書として使われて来たのだ。アメリカの大統領リンカーンも上院議員になってから、論理の訓練のために「原論」を勉強したそうである。君も図書館へ行って、このような時空を超えた書物を開いてみよう。

（附属図書館長 前原潤）

プラスワン

01
旅人：ある物理学者の回想
湯川秀樹著
日本図書センター，1997



大学は教育と研究を行うところですが、その基になるのが知識です。科学技術の分野ではその知識となる事物の発見、知見、そして発明はいかになされ、また知の創造はいかになされているのでしょうか。

本書は、日本人として最初にノーベル賞を受けた湯川秀樹先生が、中間子理論の着想を得るまでの回想を述べていますが、全体に流れている雰囲気は、学問への憧れ、楽しさが描かれています。もちろん、それを得るためには多くの努力と葛藤が必要ですが、それをいかに乗り越えてきたかを示しています。大学生にとって一番大切なことは、

学問の楽しさ、考えることの大切さ

工学部 福本功

主体的かつ客観的に物事を考えることですが、ひとりの物理学者が特に大学生の時代をどのように過ごしたかを知るとは、これから皆さんが大学生活を送るにあたってひとつのヒントを与えてくれると思います。さらに興味のある方は、あわせて湯川秀樹著『創造への飛躍』も読まれると大いに参考になると思います。

02
食と健康：情報のウラをよむ
村上明、森光康次郎編
丸善，2002



現在は空前の健康食ブーム！ テレビや雑誌には「からだにいい」とされる食品が日替わりで紹介されています。「ついに完成！ ○○で一ヶ月5kgのダイエット！」と書かれたこの手のチラシ、結構ありますね。また食事を抜く代わりにサプリメントで生活している方はいませんか？ 健康ブームの裏には、科学的要素が欠けた情報が氾濫しています。この『食と健康：情報のウラを読む』には一般の消費者が認識している健康情報と科学的事実のギャップにメスを入れることを目的に書かれています。多少の専門用語が登場しますが、ダイエットに何度も失

「食」について考えてみませんか？

農学部 高良健作

敗した経験のある方へお勧めの一冊です。また親元を離れ一人暮らしをすることになった方や、高校時代に部活動で体を激しく動かしてきた方は、新生活のスタートとともにこれまでの食生活が大きく変わるか、見直す必要があります。この機会に「食」について学んでみませんか？

03
バカの壁
養老孟司著
新潮社，2003



近年、「お勉強」の仕方に関するマニュアル本が大はやりである。お利口さんになりたいという気持ちはわかるが、近道をしようというその根性が気に入らない。夢を奪ってしまうようで申し訳ないが、いわゆる「知のマニュアル」を利用して賢くなった人を見たことがない。「一週間で英語をマスター」なんてのに大枚はたいて、英語が上達した人を君は見たことがあるか？ 少なくとも私はない。同じことである。原因はそのマニュアル自体にあるのではなく、それを使う人間の「心構え」にある（ここで「性格」などと言ってしまうと身も蓋もないので、敢えて言わ

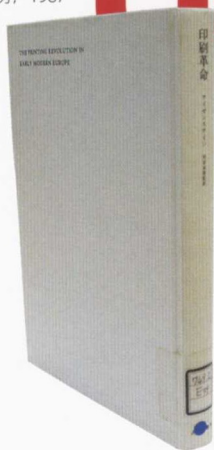
少年老い易く…

法文学部 石川隆士

ない……書いてるけど。by 一休さん)。
本書はそんな軟弱者に心優しい鞭を加えてくれる。しかも解剖学者である著者は、その軟弱ぶりを脳のメカニズムから実証してくれるので、心当たりのある人は平謝りするしかない。何を隠そう私もその一人である。でも、それでいいのだ。自分の無知ぶりに恥じ入り、そこから力強く踏み出す。産みの苦しみに、知恵熱……本書は学ぶということが、紛れもなく身体を通しての体験であることを教えてくれる。

印刷革命

エリザベス・アイゼンスタイン著
みすず書房、1987



図書館の歴史は大変古い。メソポタミア時代のアシュールバニパル図書館や、古代エジプトのアレクサンドリア図書館など、紀元前から現代まで、図書館が収集し保存しようとした対象はもっぱら文字記録である。粘土板やパピルス卷子本を含め、書物は長い間人間の主要なコミュニケーションメディアであったからだ。

ところが20世紀後半、突如コンピュータが私たちの生活を変え始めた。コンピュータが私たちの精神、社会、文化にこれからどのような影響を与えていくのかと考えたとき、世界のメディア学者たちは過去に起こったも

メディアが変われば 人も変わる？

教育学部 若松昭子

う一つのメディアコミュニケーション革命、すなわち印刷革命に思いを馳せ、その検証を始めた。その代表的な研究の一つが、アイゼンスタインの『印刷革命』である。この書は、印刷術発明以前とそれ以後の人間の思考や表現パターンの変化、人々の社会的・知的生活の変化などに注目し、500年近く私たちを支配してきた活字メディアの文化とは一体いかなるものであったのかを見事に論証している。思わず引き込まれてしまうメディアの精神史・社会史である。

沖縄の自然を知る

池原貞雄、加藤祐三編
築地書館、1997



これから数年間は沖縄で暮らす新入生の皆さんは、沖縄の社会や自然が抱えているいろいろな難問に少しずつ接することになると思います。特色ある豊かな自然に恵まれた沖縄ですが、近年の乱開発で沖縄の自然は急速に失われつつあります。この本には、沖縄の自然のすばらしさと危機的な現状がさまざまな分野から解説されています。沖縄の自然に触れ、この本を読めば、その大切さが理解できると思います。学生生活を過ごす間に、沖縄を通して環境問題について考えてみて下さい。

ルール違反を承知で、あえてもう1冊紹介します。木下是雄著『理科系の

沖縄から 環境問題を考える

理学部 横田昌嗣

作文技術』がそれです。この原稿を書いているときは、ちょうど学生の卒業論文や修士論文を読んでいるときでした。この本を読んでいれば、もっとわかりやすい文章が書けるのに、と原稿を読みながら思いました。理系に限らず、内容を正確に相手に伝える、わかりやすい文章を書くことは、社会人としては必要な条件だと思います。文章の構成の仕方、段落の区切り方などに関する解説は、分野を問わず参考になると思います。類書はたくさんありますが、論旨の明快さと内容の深さでは、この本におよぶものはないように思います。ぜひ一読して下さい。

生きがいについて

神谷美恵子著
みすず書房、1966



あまりにも有名な本書であるが、学生時代は立ち読みした程度であった。みすず書房らしからぬさりげない書名であるが、いわゆる生きがい本とはまったく異なる。本書と再会したのは妻の本棚であった。「医学部に行くならぜひ読んで欲しい」と知人からいただいたという。しかし本書は職業や年齢で読者を限定しない。

著者は19歳で牧師の父と共にらい病療養施設を訪れ、「悲しむひと、苦しむひとのところにしか私の居場所はない」と感じた。結核で闘病の後、25歳で念願の医学の勉強を始め、精神科医となってからは約15年にわたって

ほんとうに大切なこと

大学院医学研究科 荻谷研一

らい病療養施設に通った。著者にとって医学の道は、「ひとにふれる道」であった。らい病の患者さんとのふれあいを契機に、生きがいという、ひとにとって本当に大切なことについての思索が紡ぎ出されて本書となった。飾らないが美しい文章で綴られており、どこから読み始めても穏やかな著者の声が聞こえてくる。

ケア学：越境するケアへ

広井良典著
医学書院，2000



「21世紀はケアの時代である、とよくいわれるようになってきた。そもそも人間にとってケアとはどういう意味を持つものなのか。ケアの多面的な広がりとはさまざまな奥行きを持った営みをめぐる探求の旅に今から出発することにしよう」とはじめに著者が述べているように、この本は、ケアを切り口にした保健・医療・福祉の分野で最近話題になっている事柄を知ることができる。ケアすることの意味やこれからの時代におけるケアに関する制度の方向性が示され、内容は盛りだくさんであるが、拾い読みするだけでもおもしろい。例えば、超高齢化時代の死生観

ケアってなんだろう

医学部保健学科 宇座美代子

とターミナルケアの章では、医療モデルに生活モデルを加味したこれからのターミナルケアについて論述しているが、誰もがこれから迎えるであろう死について考える機会となるだろう。

ケアってなんだろうと思っている人にとってはもちろんのこと、ケアにまったく関心のない人にとっても、この本はこれから私たちが生活し生きていく上でさまざまな示唆を得ることができるだろう。また、ケアについて考えるための参考文献が10ページにわたって紹介されていて、さらにケアについて学習を深めたい人の参考になる。

新入生に贈る

ひらめき・
きらめき
の一冊

+1

プラスワン

死霊

埴谷雄高著
河出書房新社，1971



この書物は、観念小説、形而上小説、意識の文学、密室文学、存在と宇宙をテーマにした文学……なんていわれているが、とにかく巷の小説にある筋やストーリーが展開する人間模様の世界というのではない。そういう現実、生の次元を超えた世界で語られている。何しろ〈存在の革命〉を目指す小説というのだから、テーマがでかい。読み始めると、時に理解困難なため立ち止まったりするものの、病みつきになる不思議な小説だ。登場人物たちの会話の中に風変わりな思想(?)が展開されていておもしろいのである。

作者の埴谷雄高は、獄中にいたとき、

みえざる世界の 読み方

附属図書館 松原敏夫

カントの「純粋理性批判」から着想を得てこれを書き始めたという。1948年に第一章を、1995年に第九章を発表した。つまり半世紀かかって書かれた小説だが、作者の死で未完に終わった。この謎めいた(?)絶対自由者・思想文学者埴谷が書いたものには他にも独特の観念で書かれたものが多いし、今も根強いファンが多い。

僕が学生であった頃、この書物に出会って、これこそ哲学と文学を合体した小説、日本文学が達成した傑作だと友人たちと共感し、不可能なものを可能にする想像力の偉大な産物に唸ってしまったのは、つい昨日のことのようだ。

Orientation for Incoming Freshmen

新入生オリエンテーションのご案内

新しく大学生になられた皆さんを対象に、「新入生のための図書館オリエンテーション」を開催します。図書館は知識の宝庫です。紙資料の図書、雑誌だけでなく、電子ジャーナル、文献情報データベースなどの電子資料も充実しています。図書館を活用できるかどうかで大学生活の充実度が違ってきます。大学図書館にはどのような資料があり、皆さんが必要な資料を広い図書館の中でどのように見つけたらよいのか、など図書館の利用法の初歩をガイドいたします。ぜひご参加ください。できましたら事前の申し込みがありますが、ご都合の良い日に下記集合場所に直接来られても結構です。

開催日： 4月6日（火）～16日（金）の毎日（土・日を除く）
開催時間： 14:00～15:00
集合場所： 本館1階 多目的ホール
内容： 図書館ツアー、蔵書検索 OPAC、ホームページの利用法
お申し込み： 電子情報係（tel: 098-895-8167）

案内サインを一新

留学生にもわかりやすい館内サイン



資料や施設の利用効率促進のため、本館の館内案内サインを一新しました。

各階の入口に総合案内図を配置し、書庫内にも詳しい案内図を設置しましたので、資料の配置が一目でわかるようになりました。各部屋入口上部にはそこに配置された資料名を表示し、誘導するための矢印形サインも通路に取付けました。それにより必要な資料までの移動がわかりやすくなりました。

特に今回すべてのサインに英文表記をつけ、国際化に対応しています。さらに、配置の変更があった場合も修正が容易なよう配慮し、常に最新の情報を利用者へ提供することが可能となりました。

教養図書さらに充実

蔵書の森の道しるべ

教養図書コーナーの図書を追加しました。「沖縄」「日本人・日本文化」「古典」「物語」「歴史」「哲学・思想」「生き方・こころ」「現代・環境」「科学・科学者」をキーワードとして、選び抜かれた良書がそろえられています。「教養と品位ある人材養成」は、琉球大学の教育方針の一つでもあります。学生の皆さんが教養を身につけて人間形成を図るためには、良い本を多く読むことが一番です。

附属図書館では、「教養と品位ある人材養成」を支援するために、学生の自学自習の場としての機能を高めるとともに、教養図書や外国図書の充実を進めています。このコーナーの図書が「蔵書の森」への道しるべとなるように、資料を充実しています。教養図書コーナーは、本館は2階情報ラウンジ内に、分館は1階閲覧室内にあ

ります。詳しくは図書館 Web サイト (<http://www.lib.uryukyu.ac.jp/100sen/>) をご覧下さい。



シラバス関連図書をそろえました

予習復習は図書館で

学生の皆さんが受講する講義科目を選択する際に参考とされるシラバス（授業計画表など）には、それぞれの講義内容をより深く理解するための参考図書が紹介されています。今回図書館では、教育研究上必要な資料を系統的に収集するため、「シラバス関連図書」の積極的収集に取り組み、取りそろえました。シラバス関連図書は、

特別なコーナーを設けることなく、一般資料と同様主題別に分類をして、閲覧室や書庫に配架してあります。図書館内での所在は、シラバスに記載されている書名・著者名を検索のキーワードとして蔵書検索 WebOPAC から調べることができます。学習・研究にご活用ください。

国際資料室往来

駐日欧州委員会代表部大使夫妻表敬訪問

欧州連合（EU）駐日欧州委員会代表部、ベルンハルド・ツェプター大使夫妻が沖縄を訪問され、2003年10月30日、琉球大学長への表敬訪問に来られました。学長室にて、副学長、附属図書館長、EU関係の研究者らとともに懇談された後、国際資料室にあるEU関係資料を御覧になりました。

また、附属図書館では、5月12～25日の間「日・EUフレンドシップウィーク」のイベントを企画中です。

学内共同利用施設として、2003年12月1日付で「琉球大学移民研究センター」が発足しました。同年12月17日には表札の上掲式を行い、その後の懇親会の会場には附属図書館所蔵の移民関係資料の一部も展示されました。

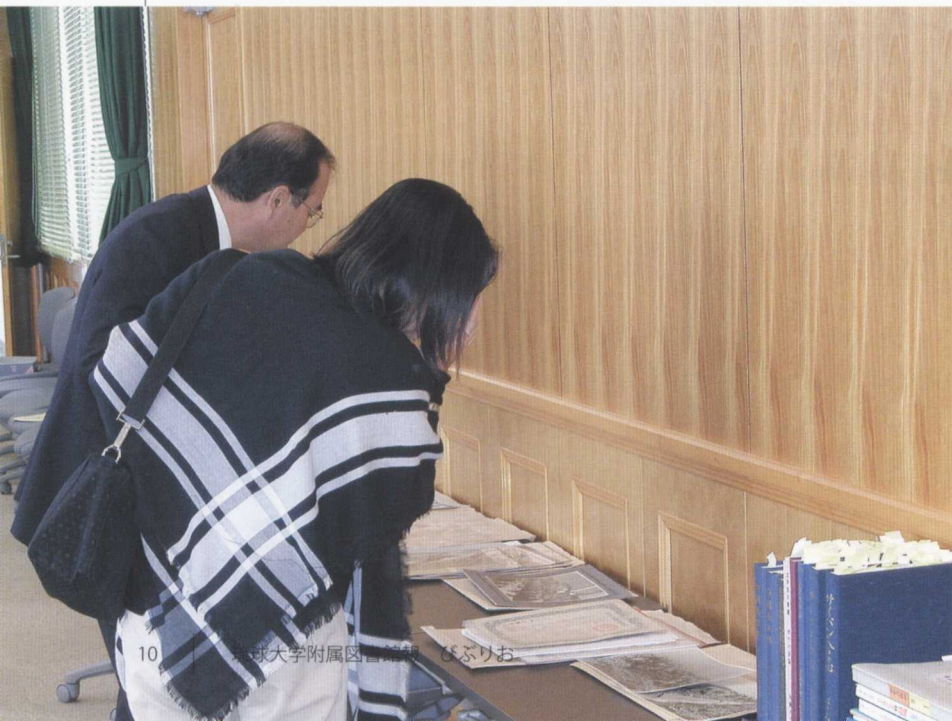
センターの設置目的は「海外における日本人移民と日本における日系人に関する個別的、総合的、学術的研究およびプロジェクトを推進することにより、特に北中南米、太平洋地域、東南アジア諸国を研究対象とする移民研究の拠点として、研究の進展と相互理解に貢献すること」にあります。その目的を達成するための業務は、

(1)共同研究及びプロジェクトの企画・立案及び推進、(2)移民関係資料の収集・整理・データベース化、(3)移民研究に関する国内外の研究者及び研究機関との共同研究及び交流、(4)移民研究に関する研究上の成果の蓄積、公表、情報の交換、などに関することにあります。

センターの研究分野は以下の4つで成り立っています。(1)沖縄出移民の研究、(2)海外における沖縄移民社会形成過程の研究、(3)沖縄社会における日系人の定住過程に関する研究、(4)グローバル化と人の移動に関する研究。センターの活動目標としては、中・長期的に国内・国外の移民関係資料の収集・調査、同資料のデータベース化とマルチメディアアーカイブの構築、研究交流、情報公開を目指しています。センターの組織としては、センター長・副センター長のもとに、運営委員会委員8人と併任教官11人が配置されています。施設としては、文系総合研究棟6階の602-2室が割り当てられ、事務は総務部研究協力課が担当しています。また、センターのWebサイトも開設しました (<http://www.imin-uryukyu.ac.jp>)。

21世紀は地球規模で、人・物・情報が激しく動き、「移民」「移住」「移動」も学問研究上の好個の対象となりつつあります。センターとしても、上記目標・趣旨に賛同し、研究意欲のある教員の参加を歓迎いたします。

(前移民研究センター長 石川友紀)



国連資料検索ガイダンス開催

専門職員を招いた実践的講習を行いました

国連広報センター、千葉潔氏をお招きして「国連資料の検索ガイダンス」を、2003年12月18日開催いたしました。ガイダンスは3部構成で、第1部「国連文書に関する基礎知識」では、国連文書や出版物のドキュメント記号／番号や体系について、総会、安保理、経社理といった国連機関の相互関係などを見ながら解説され、議事録や報告書などさまざまな紙文書、刊行物の案内をしていただきました。第2部「インターネット検索ツール」では、UNBISNETやODS、UN-I-QUEなどのレファレンスツールについて、実際の検索事例を取りあげた詳しい説明がありました。第3部「国連ウェブサイト／ウラワザ情報」では、リサーチに役立つ、さまざまな国連ホームページの上手な使い方の紹介がありました。

本学教官、学生、職員のみならず沖縄県庁からも定員を上回る参加者があり、熱心に受講しておりました。国

連資料は、EU資料、OECD資料などとともに本館3階国際資料室に配架されています。詳しくは、国際資料室サイト (<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/kokusai/>) をご覧ください。



貴重書展 in 名護 終了

貴重な史料を広く県民に公開するために

2003年11月11日～16日の6日間、名護市立中央図書館展示ホールにて、「史料が語る琉球」をテーマに、琉球王府文書、久米島関係史料、文芸史料など約100点を展示する2003年度附属図書館貴重書展を開催しました。学外での開催は今回で3回目ですが、公共図書館との連携による開催は初めてです。これは開館5周年を迎える名護市立中央図書館からの要望により実現したもので、小中高生から一般市民、地域の郷土史研究者など1,500名を超える入場者があり、大きな反響をいただきました。

アンケートには「琉球王府の史料に感動した」「沖縄の文化を再認識した」「今後も名護市で開催してほしい」など、普段地元で接する機会が少ない貴重史料の展示を今後も続けて欲しいとのご意見を多数いただきました。附属図書館では、地域との連携・地域への開放を促進し

ているところで、今後もこのような貴重書展を継続して開催していく予定です。



お知らせ

開館カレンダー(2004年度)

●本館

4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

●医分館

4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

開館時間：【黒】8:30～22:00 【緑】13:00～20:00 (分館は13:00～18:00) 【青】8:30～17:00 【赤】休館
休館日：開学記念日(5/22)

本館だより

<第244回附属図書館運営委員会録>

平成15年12月8日

○協議事項

1. 電子ジャーナルの維持について(継続)
2. 琉球大学附属図書館CD-ROM検索システム利用規程の廃止について
3. 琉球大学附属図書館利用規程の改正について

○報告事項

1. 平成16年度科学研究費研究成果公開促進費(データベース)の申請について
2. 沖縄関係資料調査収集専門委員会報告
3. 電子図書館機能検討委員会報告
4. インターンシップ(普天間高校)について
5. ボランティアについて
6. 貴重書展について
7. 会議報告

<平成15年度第3回沖縄県大学図書館協議会講演会>

平成16年2月12日

演題：「大学図書館(員)の教育・学習支援を通じた大学改革への挑戦」

講師：長田秀一氏(亜細亜大学教授)

場所：本館1階多目的ホール

医分館だより

<第51回医学部分館運営委員会録>

平成15年11月12日

○協議事項

1. MEDLINEの利用形態について
2. 外国雑誌購読形態について

○報告事項

1. 第51回九州地区医学図書館協議会総会について

開館カレンダーができました。

2004年度開館カレンダーができあがりました。携帯に便利な名刺サイズのカードです。図書館カウンターにて配布中です。



■編集後記

新入生の皆さん、大学図書館で初めて読む記念すべき1冊目はもうお決まりですか？今回は、好評で続編を望む声が多かった「新入生に贈るきらめき・ひらめきの一冊」に、各学部教員のほか図書館専門員による読書案内を加えて、「プラスワン」として企画いたしました。図書館には、皆さんの先輩や先生方から読み継がれた約100万冊の図書があります。一冊一冊の歴史の中には、先輩方が抱いた学問への発見や憧れなどの気持ちが詰まっています。ぜひ図書館でページを開いてみて下さい。